

| 質問の件名及び質問の趣旨(質問時間)  | 答弁を求める者                |
|---|------------------------|
| <p>1 誰もが行きたくなる公園を(30分)</p> <p>公園には、安らぎや憩い、遊び、そして緑といった人それぞれが持つイメージがありますが、都市公園の担う役割は「公共の福祉」と広く捉え、誰もが行きたくなる公園づくりについてうかがいます。</p> <p>この数年、遊具による事故や老朽化による撤去と、公園の長寿命化についても大きな課題となっています。それだけが要因ではないと思いますが、市内の都市公園が、日常的にいつも市民で賑わっているようには見受けられません。</p> <p>少子高齢化や共働き家庭の増加で、昼間の空洞化を加味しても、市民が公園に足を運ばないのはなぜなのでしょう。</p> <p>公園は、一日を通して幅広い世代の地域の子どもたちの遊び場となります。地域のさまざまな世代が、集い過ごせるコミュニティ拠点であると同時に地域の防災拠点としても、公園は多くの可能性を秘めています。</p> <p>公園に多様なイメージがあるように、利用者のニーズも一様ではありません。社会的な要因、そして、市民が公園に求めているものの把握はできているのでしょうか。また逆に、そういった状況にあった公園づくりを進めることで、公園本来の目的にかなった賑わいが生まれるのではないかと思います。</p> <p>支え合う安心のまちづくりに、身近なところで人が憩える公園が果たす役割はますます重要となってくるのではないのでしょうか。</p> <p>平成24年に、国土交通省で「公園施設長寿命化計画策定指針(案)」が出され、鶴ヶ島市では平成26年度に「公園施設長寿命化計画策定調査」の予算1,000万円が組まれております。</p> <p>本市の公園づくりについての方向性について質問します。</p> <p>(1) 公園施設長寿命化計画策定事業の成果と課題<br/> ア 危険箇所の把握と修繕計画<br/> イ 遊具の安全性と傾向について<br/> ウ 利用環境に即した市民のニーズ</p> <p>(2) 市民との協働による公園づくり<br/> ア 公園サポート団体との連携<br/> イ 特定非営利法人あそび計画との連携<br/> ウ 住民参加の先進事例</p> | <p>市長<br/>教育委員会委員長</p> |

| 質問の件名及び質問の趣旨(質問時間)   | 答弁を求める者 |
|--|---------|
| <p>2 認知症の予防と対策 (30分)</p> <p>平成27年1月、厚生労働省が発表した新オレンジプランによれば、2025年に認知症高齢者は約700万人、高齢者の約5人に1人というショッキングな内容です。</p> <p>また、若年性認知症の推定発症年齢の平均が、51.3歳ということもつい最近知り、身につまされる思いです。</p> <p>認知症になっても安心して暮らせる社会であるためには、認知症の方の気持ちを理解するといった周囲からのコミュニケーションが重要となってきます。私も「認知症サポーター養成講座」を受講したことがありますが、こういった様々な活動を通して、認知症への理解は広がってきています。しかし、前述の予測数値が示すのは、見守りの必要だけでなく、自分自身がそうならないための生活の選択だと感じました。</p> <p>本市において、認知症高齢者の方々にどのような配慮をされているのか、また、「認知症の発症や進行を遅らせ」「発症しても早めに適切な対応をする」認知症予防対策事業についての取り組みについてうかがいます。</p> <p>(1) 認知症高齢者への配慮について</p> <ul style="list-style-type: none"><li>ア 鶴ヶ島市の認知症高齢者数の把握は</li><li>イ 認知症サポーター養成講座の受講者数は</li><li>ウ 居宅の場合の支援体制は</li></ul> <p>(2) 認知症予防対策事業への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"><li>ア 早期発見のための取り組み</li><li>イ 進行を遅らせるための取り組み</li><li>ウ 認知症予防ファシリテーターについて</li></ul> | 市長      |